

【 企業 動 向 調 査 （ 製 造 業 ） 概 況 】

2024年7月～9月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲ 15.3ポイントとなりました。

前期調査結果（2024年4月～6月期：▲ 5.2ポイント）と比較して10.1ポイント悪化しました。その他経営上の問題については、「売上減少が続いている中、10月からの最低賃金アップが非常に厳しい。扶養の範囲内で収入制限のあるパートさんはやむを得ず年内に数日の休みを取らなければならず苦慮している。」、「半導体関連の回復が遅れている。」、「この数ヶ月、若手からベテランまで離職が続いている。自社も中途採用しているのである程度離職者が出るのは（世の中のバランスとして）仕方ないが、人材流出に補充が追い付いていない。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「その他業種」はプラスポイント、「金属」、「一般機械」、「電気機械」、「木材家具」は、マイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	33.3	（前期比：プラス	33.3）
金属	▲ 35.7	（前期比：マイナス	28.5）
一般機械	▲ 10.0	（前期比：マイナス	10.0）
電気機械	▲ 30.0	（前期比：プラスマイナス	0.0）
木材家具	▲ 33.3	（前期比：プラス	16.7）
その他業種	8.3	（前期比：マイナス	14.8）

2. 次期予想D I（2024年10月～12月）

次期予想の平均は▲ 3.8ポイントで、今期調査結果の平均(▲ 15.3)より、11.5ポイント上回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	33.3	（今期比：プラスマイナス	0.0）
金属	▲ 14.3	（今期比：プラス	21.4）
一般機械	▲ 30.0	（今期比：マイナス	20.0）
電気機械	11.1	（今期比：プラス	41.1）
木材家具	▲ 33.3	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	15.4	（今期比：プラス	7.1）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が60.4%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が49.1%、「受注の減少」が35.8%、「労働力不足（量的なもの）」が28.3%、「納期の短縮」が15.1%、「同業他社との競争激化」が13.2%「製品販売価格の低下」が11.3%、「技術力の不足」が7.5%、「人員過剰」と「取引先の海外シフト化」が5.7%、「金融難」と「為替相場の変動」が3.8%となっております。

企業動向調査

【2024年7月～9月期 <3期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2024年7月～9月期<3期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2024年10月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 53社（回答率 56.3%）

【調査結果】

自社業況判断（DI=好転-悪化）

前期比：「好転」13.5%（前回17.2%）、「悪化」28.8%（前回22.4%）という割合でDIは▲15.3となり、10.1ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」19.6%（前回22.0%）、「悪化」29.4%（前回33.9%）という割合でDIは▲9.8となり、2.1ポイント好転した。

次期予想：「好転」15.4%、「悪化」19.2%という割合でDIは▲3.8（前回▲11.8）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（DI=増加-減少）

前期比：「増加」17.0%（前回22.0%）、「減少」26.4%（前回28.8%）という割合でDIは▲9.4となり、2.6ポイント減少した。

前年同期比：「増加」18.9%（前回25.4%）、「減少」34.0%（前回39.0%）という割合でDIは▲15.1となり、1.5ポイント減少した。

次期予想：「増加」13.2%、「減少」26.4%という割合でDIは▲13.2（前回▲11.8）となり前期より若干の減少を予想している。

生産量（DI=増加-減少）

前期比：「増加」13.2%（前回20.3%）、「減少」26.4%（前回30.5%）という割合でDIは▲13.2となり、3.0ポイント減少した。

前年同期比：「増加」18.9%（前回23.7%）、「減少」30.2%（前回35.6%）という割合でDIは▲11.3となり、0.6ポイント増加した。

次期予想：「増加」15.1%、「減少」24.5%という割合でDIは▲9.4（前回▲10.1）となり、前期より若干の増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」1.9% (前回0.0%)、「上昇」42.3% (前回45.6%) という割合でD Iは▲40.4となり、5.2ポイント低下した。

前年同期比：「低下」1.9% (前回0.0%)、「上昇」76.9% (前回72.4%) という割合でD Iは▲75.0となり、2.6ポイント上昇した。

次期予想：「低下」0.0%、「上昇」40.4%という割合でD Iは▲40.4 (前回▲48.3)となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」13.7% (前回13.8%)、「低下」0.0% (前回8.6%) という割合でD Iは13.7となり、8.5ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」31.4% (前回29.3%)、「低下」5.9% (前回6.9%) という割合でD Iは25.5となり、3.1ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」13.7%、「低下」3.9%という割合でD Iは9.8 (前回10.3)となり、前期より製品販売価格の若干の低下を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」1.9% (前回8.6%)、「悪化」19.2% (前回19.0%) という割合でD Iは▲17.3となり、6.9ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」7.7% (前回12.1%)、「悪化」15.4% (前回22.4%) という割合でD Iは▲7.7となり、2.6ポイント好転した。

次期予想：「好転」5.8%、「悪化」21.2%という割合でD Iは▲15.4 (前回▲13.8)となり、前期より資金繰りの若干の悪化を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」15.4% (前回15.3%)、「減少」19.2% (前回22.0%) という割合でD Iは▲3.8となり、2.9ポイント増加した。

前年同期比：「増加」11.5% (前回11.9%)、「減少」28.8% (前回28.8%) という割合でD Iは▲17.3となり0.4ポイント減少した。

次期予想：「増加」9.6%、「減少」23.1%という割合でD Iは▲13.5 (前回▲6.8)となり前期より労働時間の減少を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」9.8% (前回15.3%)、「低下」27.5% (前回23.7%) という割合でD Iは▲17.7となり、9.3ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」19.6% (前回18.6%)、「低下」39.2% (前回32.2%) という割合でD Iは▲19.6となり、6.0ポイント低下した。

次期予想：「上昇」5.9%、「低下」23.5%という割合でD Iは▲17.6 (前回▲13.5)となり、前期より収益率の若干の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 60.4%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 49.1%)
3位	受注の減少	(→ 35.8%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 28.3%)
5位	納期の短縮	(↑ 15.1%)
6位	同業他社との競争激化	(→ 13.2%)
6位	製品販売価格の低下	(↑ 11.3%)
8位	技術力の不足	(↓ 7.5%)
9位	人員過剰	(↑ 5.7%)
9位	取引先の海外シフト化	(→ 5.7%)
11位	金融難	(↓ 3.8%)
11位	為替相場の変動	(→ 3.8%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食 品

前 期 比：「**好転**」 33.3%（前回 0.0%）、「**悪化**」 0.0%（前回 0.0%）という割合で
D Iは 33.3 となり、33.3 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 66.7%（前回 33.3%）、「**悪化**」 0.0%（前回 16.7%）という割合で
D Iは 66.7 となり、50.1 ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」 33.3%、「**悪化**」 0.0%という割合でD Iは 33.3(前回 16.7)となり
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前 期 比：「**好転**」 14.3%（前回 21.4%）、「**悪化**」 50.0%（前回 28.6%）という割合で
D Iは▲ 35.7 となり 28.5 ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」 15.4%（前回 14.3%）、「**悪化**」 46.2%（前回 35.7%）という割合で
D Iは▲ 30.8 となり、9.4 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」 0.0%、「**悪化**」 14.3%という割合でD Iは▲ 14.3(前回▲ 14.3)となり、
前期と変わらないと予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前 期 比：「**好転**」 10.0%（前回 16.7%）、「**悪化**」 20.0%（前回 16.7%）という割合で
D Iは▲ 10.0 となり、10.0 ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」 0.0%（前回 8.3%）、「**悪化**」 40.0%（前回 41.7%）という割合で
D Iは▲ 40.0 となり、6.6 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」 10.0%、「**悪化**」 40.0%という割合でD Iは▲ 30.0(前回▲ 25.0)となり、
前期より若干の悪化を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」0.0%（前回10.0%）、「悪化」30.0%（前回40.0%）という割合でDIは▲30.0となり、前回と変わらない。

前年同期比：「好転」20.0%（前回30.0%）、「悪化」20.0%（前回50.0%）という割合でDIは0.0となり、20.0ポイント好転した。

次期予想：「好転」22.2%、「悪化」11.1%という割合でDIは11.1（前回▲10.0）となり、前期より好転と予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」0.0%（前回0.0%）、「悪化」33.3%（前回50.0%）という割合でDIは▲33.3となり、16.7ポイント好転した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回0.0%）、「悪化」33.3%（前回50.0%）という割合でDIは▲33.3となり、16.7ポイント好転した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」33.3%という割合でDIは▲33.3（前回▲50.0）となり、前期より好転を予想している。

Q10 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（6月）と同様のマイナス1ポイントとなりました。製造業は、マイナス15ポイントと2ポイント悪化し、非製造業は、プラス14ポイントと1ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」5.7%、「今はないが、今後好転が見込まれる」9.4%、「変わらない」49.1%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」18.9%、「悪化している」17.0%。

Q11 ①DXを活用した業務効率化等に興味がありますか。

A 「興味があり、既に取り組んでいる」32.1%、「興味はあるが、取り組んでいない」35.8%、「興味がない」24.5%、「無回答」7.5%。

Q11 ②DXに取り組んでいる場合は、その内容教えてください。また、課題や次に取り組みたい内容があれば教えてください。

A 「システム人員に限りがあるので、一般社員のスキル習得、レベルアップにより簡単なシステム対応は自ら行うことができるようにしていく。（ノーコードアプリの習得）RPAの推進」、「システム導入等による業務の自動化、若手社員中心でのDX推進活動。」、「社内標準書のデジタル化など。」、「電子化は進めてきているが、DXまでには至っていない。」、「現状：施工管理、契約書、経理。課題：周知に時間がかかる。」、「生産管理システム、エビデンスの管理など。」、「ソフ

トなので小さい企業ほど初期投資の負担が大きい。初期投資しやすい、またカスタムしやすいソフトの紹介など。DXは範囲が大きすぎて夢物語講師も多いので小企業が現実的な話が聞きたい。」「設計から生産、営業・サービスを一元化するPLMデータベース構築。データ基盤を活用した生産性向上。」「経費精算・請求書処理の電子化。」「RPA活用推進。生産管理ほか各業務管理システム見直し、刷新。」「紙ベースを減らす。効率化へのシステム情報収集。」「社内各種データのデジタル化と蓄積データの活用。」「ECサイトと連携した在庫管理システムの構築。」「無料セミナーに参加して情報収集はしている。一時期よりはコストがダウンしているサービスが増えてきたように思えるがまだ踏み出していない。」「製品の進捗管理や経費精算等の事務処理のシステム化。」「生成AIを活用した単純業務の自動化、効率化。」等。

Q11 ③DXに取り組んでいない場合は、その理由を教えてください。

A 「何から取り組んだらいいかわからない」17.0%、「取り組みたい分野があるが、専門知識が不足している」9.4%、「取り組みたい分野はあるが、費用面に不安がある」13.2%、「取り組みたい分野があるが、人手が足りない」と「その他」7.5%「無回答」47.2%。

Q11 ③その他（理由）

A 「そもそもDXが何の略かわからない。」「社長が交代で未定。」「もう少し様子を見ながら導入を進めたい。」等。

Q11 ④DXについて学べる機会があれば、利用したいですか。

A 「利用したい」45.3%、「利用しない」35.8%、「無回答」18.9%。

Q12 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「賃上げも良いが可処分所得は変わらない。又は低下。ランクもあがるので社会保険料の企業負担は非常に大きい。何とかならないものか？大手のDX出来ない（見合わない）部分を中小企業が請け負っている。デジタルとアナログの融合がうまく行けば良いのだが。」「カーボンニュートラルに向けた環境対応の取組み。多様な人材の確保と活躍推進。海外市場の開拓。」「受注が低迷したまま、業界全体がなかなか上がってこない。」「従業員の高年齢化。」「人がいない。」「定年退職に合わせて技術伝承しなければならないが、若手社員とベテラン社員との間に価値観の相違があり、ベテラン社員が丁寧な指導を心がけても若手社員には理解されずに圧力と感じてしまうケースが多く、ハラスメントとなりかねない状況がある。結果、若手社員が辞めてしまったり、精神的に参ってしまうことが問題。」「新卒採用（高卒）がなかなか応募がうまくいかない。進学が・・・。」等。

